

朝日山だより



～平成26年度

○氏の取り組み～

社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホーム ひまわり・こすもす

ヒューマンサポート タッチ・佐賀県発達障がい者支援センター結

〒841-0073

佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahiyaama@grace.ocn.ne.jp

『社会福祉法人の今と、これから』

朝日山学園 施設長 高取正憲

社会福祉法人とは社会福祉事業を行うことを目的として、社会福祉法の定めるところにより設立された社会福祉法第 22 条で定義される公益法人のことで、障がい者や高齢者などを対象とした各種福祉施設、保育園、さらには病院や診療所などの医療機関の運営主体となるものです。このような性格から、収益事業とみなされない事業については法人所得税・法人地方住民税・事業税・消費税・固定資産税は原則非課税となっています。

2011年7月以降、新聞、各所で社会福祉法人の内部留保が大きく取り上げられ、社会福祉法人はお金を溜め込んでいるというような印象を世間に与えています。低賃金とされる介護職員の待遇改善に税金を投入するのではなく、内部留保を活用するように求める声が出ています。しかし、内部留保とは、資産をどんなふうに調達してきたかを示すものなので、この言葉と現金は結びつきません。極端に言えば内部留保がなく、多額の負債を抱えている組織でも現金が潤沢な場合もありますし、大きな内部留保があっても持っている資産の大部分が土地や建物で、現金は殆ど無いということもあるでしょう。それでも一部の法人は大きな内部留保と巨額な現金を持っているのでしょう。しかし、現実には私たちあさひ会のような小さな社会福祉法人の方が圧倒的に多く存在し、そう裕福ではない運営をしていることと思います。しかし、多くの社会福祉法人はその情報を皆様に広くアピールして来なかったことが上記のような印象を与えてしまった一つの要因だと思っています。



今まであさひ会の業務、財務などに関する情報を広報誌やHPで公表してきましたが、平成25年5月に厚生労働省から経営情報開示の義務

化の通達があり、平成26年4月1日から「現況報告書並びに添付書類である貸借対照表、収支計算書」をインターネットで公表しなければならないということになりました。あさひ会として今まで以上に多くの皆様に財務情報を開示していくとともに日々の支援に関しての情報発信に力を入れていくことが必要だと感じています。

「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」の中で社会福祉法人制度見直しにおける論点として地域における公益的な活動の推進、法人組織の体制強化、法人の規模拡大・協働化、法人運営の透明性の確保、法人の監督の見直しなどがあげられています。法人の規模拡大・協働化においては法人それぞれに設立時の思いがこもった基本理念を持って支援を行ってきた歴史があり、とても容易なことではないと思います。組織の体制強化・運営の透明性においては当然のことであり、理事長始め、理事会、評議委員会で協議し作り上げて行きたいと思います。地域における公益的な活動に関しては、今この地域の中で何が必要なのか、私たちに何が出来るのかを充分検討し、また、皆様にアドバイスを頂きながら進めていくべきものだと思っています。

「重い障がいがあっても、当たり前生き方が出来るように」「重い障がいがあっても人として尊重されて生きていけるように」「重い障がいがあっても自分で考え判断して生きていけるように」「地域の方々と関わりをもちながら、生きていけるように」という法人理念のもと、この地にある社会福祉法人としてその使命を全うしていきたいと思えます。これからもあさひ会の活動にご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。



☆活動報告・紹介

『祝日の企画、活動について』

朝日山学園 生活支援主任 松田浩平

朝日山学園では利用者の方々に少しでも「祝日」が楽しみの機会になり日頃体験できない様な企画を提供できたらという目的の中で、祝日には企画を練って活動を取り入れています。今までは上映会、お菓子作りという事がメインになっていましたが、スタッフ間で話を行う中でもっと内容に意味のある活動や、もっと楽しみになるような事はないか？とアイデアを出し、社会活動として「地域のゴミ拾い」の活動を行いました。ゴミ拾いは日頃使用している散歩場所、活動場所、朝日山学園周辺等、班を分けて実施し、各利用者の方にあつたスケジュール、道具を事前に準備して取り組みを行いました。祝日の企画で日頃体験する事の出来ない事をするという事の大切さを改めて感じる事ができ、利用者の方々も真剣になって取り組んで頂けた事を本当にうれしく思いました。

「ゴミ拾い」が終わった後のジュース購入、達成感、一生懸命に取り組んだ後の飲み物の味は各利用者の方々の表情を見れば一目瞭然です。最高の表情をされていました。地域で生活する上で、役割を持つという



事はとても大事な事です。その中で地域の方々から「ありがとう」と行ってもらったり、地域の方々と交流を深めたりしていける内容を考えていけたらと思います。その後の企画でも「ひまわりの種をみんなで植える」という活動も行いました。ひまわりの種をテラスにある花壇にみんなで植えるという活動です。種を花壇で渡すとそのまま種を上から落とす方もいたり、植えるという事が分からずに動きが止まる方もいました。

そこでどこに植えたらいいかわからない方には視覚的にわかりやすい印を付けて、写真を提示して土の穴に種を入れてもらう配慮を行ったり、ジョーゴのような物を作成し、高い位置から落としても穴に入る様にしたりしました。するとやる事が明確になり、スムーズに種植えを行う事が出来ました。種を植えた事で利用者の方々には種に水をまく仕事も活動として導入できる機会になりました。



これからも祝日はたくさんあります。その中で利用者の方、一人ひとりがこれからも楽しんでもらえる機会になれる様に企画していきたいと思います。

『O氏の取り組みについて』

朝日山学園 生活支援員 江藤敬一

O氏は車に乗ってドライブに行く事が好きです。ドライブはO氏が作業に取り組む上で欠かせないモチベーションであり、車中では気持ちを落ち着かせるカームダウンの役割も担っています。

学園を利用する時間での割合は作業よりもドライブに出ている時間が長く、ドライブに行く事での満足感や、調子を維持していく為のドライブという面に着目しがちで、作業内容や作業量とその対価としての報酬のバランスという面を改善していくことが出来ていませんでした。

1回の作業の中で「繰り返す」という経験がなく限られた作業量で終了し、1回の作業量を増やし作業時間を延ばすという取り組みに繋がらない課題がありました。そこでテーブルの大きさや、作業を置くボックスを新たに設置して作業エリアの環境を見直しました。取り組みを始め

てからボックスは縦に重ねて置くよりも、横に並べた方が複数の作業を認識しやすい事、ボックスに入った状態のまま作業を進めようとするので

作業場所をマーキングしてみたものの上手く置けなかったが、作業場所に高低をつける事で、作業をボックスから出して取り組めるようになった等、新たな発見も多かったです。なにより作業エリアの見直しで、



1 回に複数の作業をこなせるようになり以前に比べて作業時間も延びる結果につながりました。作業後のドライブも、学園の周辺をぐるっと回って終わりではなく、今年度よりドライブの時に学園広報誌を配達したり、週に2回、学園に新聞・雑誌アルミ缶などの廃品の回収に行く事をドライブの目的とし、活動として組み立てました。ドライブに行く時は



見通しが持てるようにスケジュールの提示をして「〇〇に行きます」と伝えると目的地に着いてから降車するかどうか、その時の気持ちや調子にもよりますが、車から降りて荷物の運搬作業に取り組む事が出来るようになったり

と、以前に比べ活動の幅も広がっているのではと感じます。

今後も作業内容や量、ドライブの時間、場所などその時、その時の〇氏の調子やペースに合わせた支援が前提ながらも、柔軟な発想と捉え方をもって関わり、取り組みの中で新たな発見の一場面に携われたら良いなと思います。

『地域清掃、交流会を通して』

朝日山学園 生活支援員 宮崎 仁

グループホームこすもす・ひまわりの儀徳町では毎年4月に地域清掃の一環として溝掃除が実施されています。その日に合わせて、こすもすでは普段お世話になっている近隣の方々にご参加頂き交流会を開催させて頂いています。ひまわりでは近隣の方が開催される交流会に参加させて頂きます。日頃こすもす利用者の方は殆ど外出することなくグループホーム内で生活されています。その為、我々スタッフも近隣の方々の普段の暖かい御心遣いに感謝しつつも満足にご挨拶を交わす機会も少なく、どのように感謝の気持ちをお伝えできるかと日々腐心しています。その為、この日の溝掃除に参加させて頂き、終了後に交流会を開催させて頂いています。どの方もまるでいつも会ってるかのような笑顔で優しく話しかけて頂いています。「普段、顔を合わせる機会が少なくても私達のグループホームは近隣のこんなにも暖かい皆様に支えられてなりたっているのだ」といつも痛感させられます。私は昨年交流会の際に、ご参加頂いた方から似顔絵を描いて頂きました。一年以上経った今でもその似顔絵は私の職場の机に有難く飾らせて頂いています。毎日その似顔絵を見るだけでも交流会でお会い出来た方々の優しさを思い出し、強い責任感でグループホーム業務に臨むことが出来ています。年にたった一日、半日程度の時間ではありませんが、それだけでも我々スタッフは近隣の方々に感謝しながら、暖かな皆様のご支援に答える為にも利用者の皆様に快適な生活を提供出来るよう更なる努力をしようと自分を鼓舞することが出来ています。本来、こ



ちらが感謝の意を示す為の交流会なのですが、毎年更に感謝させられる交流会となっています。交流会ではいつもスタッフと近隣の方々のみならず、スタッフ間、スタッフと利用者、スタッフと保護者の方々、果ては様々な人間関係においても、常に互いに感謝の念を持つことが出来る人間関係を目標とすることを教えられています。

☆あさひやまリレー

『グループホームでの食事についての配慮点や課題』

グループホームひまわり 世話人 竹内宏明

食事は、どのグループホームの利用者の方々も最も楽しみにされています。また利用者の方々の体調や心の安定を図る大切な場でもあります。

食事の食べ方の様子で体調の良し悪しがわかることも多く、また、メニューの内容次第で利用者の方々の機嫌が良くなったり悪くなったりすることがあります。調理と食事の提供を行っているタッチのヘルパーとも情報を共有・



連携を深めながら、皆様に少しでも美味しく、そして楽しく食べて頂けるように努めています。ホームは訓練等の場ではないので栄養に支障がない限り、好き嫌いやこだわりはあっても構わないのではないのでしょうか。その上で苦手なものでも少しずつ食べて頂けるような工夫を考えています。スタッフやヘルパーの声の掛け方一つでも食べ方に差が出ることもあります。魚が苦手な方もいらっしゃるので魚のメニューが続いたり、付け合せのメニューで苦手なものが重なったりしないよう留意しています。また利用者の方の中には透析を受けていたり別の病を抱えていたりして、食事管理・カロリー制限が必要な方もおられます。しっか

りとした知識を支援者全員が身に着けておく必要があります。ヘルパーの方では既に透析施設のある病院での食事・栄養管理の勉強会に参加していますが、今後は宿直スタッフも勉強会に参加する方向でいます。

話は変わりますが、もし利用者の方々の気持ちの安定が図れていなければ、例え食事の内容・食事時の雰囲気がいくら良かったとしても、心の底からは楽しめていただけないのではと思います。食事だけでなく、利用者の方々が安心してホームでの生活自体を楽しめて頂ける支援ができるように、ホームの支援に関わるスタッフ全員の資質の向上に努めたいと思います。

☆行事報告・ピクニック

『ピクニックについて』

朝日山学園 生活支援員 矢羽多勇氣

今年もA～Dの班を作り、5月13日、14日、15日、30日に恒例行事の1つピクニックへ行って来ました。今回の場所は吉野ヶ里公園です。昨年度のピクニックでは佐賀市にある神野公園へ行き、公園内にある売店で自分が好きなお菓子やジュースを購入し、買い物を楽しむ機会がありました。今年のピクニックも近くのスーパーマーケットに立ち寄り、買い物を行って公園に行くプランで実施しました。買い物では自分の好きなお菓子やジュースを買うことができます。みなさん、目を輝かせて笑顔で購入される様子を見る事が出来ました。会計も日頃の経験が活かされ、店員の方とのやり取りもスムーズに出来ました。公園まで行く



車内でも誰が何を買ったのか等、話も弾んでいました。あいにく、現地で天候が悪くなった班もありましたが、現地では、みなさんお待ちかねの昼食タイム！外で食べるお弁当は格別に美味しい様ですね。生き活きた表情で食べられていました。食べ終わった後は、お話をしたり、散歩をしたり、アスレチックで遊んだりと各々で過ごされていました。もちろん、購入したお菓子やジュースも忘れずにみなさん楽しまれています。昨年度までは「ピクニックをどのように楽しんでもらえばいいのか」だけを考えていました。しかし、今回この報告の担当になり、「楽しんでもらいながらも、地域との関わりも大事にしなければいけない。地域への参加も考えなければいけない」と感じました。これからもピクニックやその他の行事の際にスーパーや公園などで地域の方との関わりが増えるような企画にしていきたいと感じました。

☆新しい利用者の方の紹介



今年度4月より「^{やまだともき}山田友貴」さんが朝日山学園を利用される事になりました。

いろいろな事にチャレンジして楽しく過ごしていきましょう。これからもよろしく願いいたします。

☆新しいスタッフの紹介

《看護師 ^{あんどうみき} 安藤美紀》

6月より朝日山学園の看護師として働いていただいています。皆さんよろしく願いいたします。



☆ボランティア募集しています

朝日山学園では日中利用者の皆さんが楽しんで過ごしてもらえ活動のお手伝いをしていただけの方を募集しています。利用者の方との散歩や作業のお手伝い、月に一度実施している料理教室などが主な活動です。特に料理教室では鳥栖市の市民センターで調理を行っています。よろしければ一度遊びに来てみませんか？連絡をお待ちしています。

(TEL0942-84-3266 係 松田 まで)

◎寄付者ご芳名

平成26年2月～26年7月にご寄付頂いた皆さまです。いつも温かいご支援ありがとうございます。

上田歯科医院 様 大田 明男 様 大坪 稔 様 於保 定夫 様
末藤 久美子 様 永家 光雄 様 西村 恵子 様 林 良子 様
廣瀬 耕三郎 様 上田歯科医院募金箱・医療法人野田内科募金箱
林 勝美 様(野菜)

▣編集後記

平成 26 年度がスタートして、半年が過ぎようとしています。サッカーのワールドカップも無事終わりを迎えました。中でも日本のサポーターの試合終了後にゴミを拾って帰る紳士的な運動には同じ日本人として嬉しい限りでした。私達も支援者としての誇りと自覚を持って、利用者の方の自己実現のために努めて行かねばと改めて思う今日この頃です。

(菅)